

也一ノ事を傳ゆれど誦すよしの御書也
つまひうるさんす
をもと放ててよ聲す

正德五年乙未二月仲淳从兄復守後在下瀘君美

西洋紀聞中卷

大也あ水とお食を祝國ありす城のゆゑ
天皇の仲よおうたどり鶴子のうちあらわしゆ
さりめしそせ跡の周圍れあ里より四旁より
ゆく所れもれれぞうちく立地とあります
エウロハ流ス吹罷シと伏す立木の邊ものゆすりと
更にやれええ支那の寺遊也と云ひぬよ又は草庵也人ニ問ふて
云ふも又れこびり號院エウロラハと云ふ一宿焉の寺號院也
之傍は奥山中也と云ふ也

ニッユアフリカ洋より利東垂とミツヨアシア洋より重但垂と
阿蘇地譯すも即ばの因よす又以上二大湖モニは一圓の内メシテにて也シ算
とす

四つノタルトアメリカ富良ハラルトと云はシはよ弟ト云はシよ、
南西墨利加譯すと云はシゆ

五よソイテ。アメリカソイテト云々と云はシはよ此西墨利
加ト云ア蘇地の綱ハシの因よす又上二大湖モニは一圓の内メシテにて
地シの界シとれ

六立ウロハの地方ナハマレ。カタヒヨム洋よりとシ事
北ハクルウンラ。デヤ洋次ハ卧蘭的。又シセヤリスス。

シナシテリヨキリス洋より伯京作客海東。ちタイス洋より大乃
と訣セトセ。河ハと訣セ。
キトスエキシテ。ス洋より重河的。西キマーレ。アララヒ

テシソチ洋より沃。モリアアフリカ地方。南ハカアホテ
お子イステラニサ。洋より浪山と云。地方。北ハマーレニゲ。テ、

ラニウムモナ。東キマーレ。フロム洋より。マヌ

カスカアフリカ。キアムのハ。洋ハ。麻打易矢ハ。西ハラセヤ。ヌ

下ヨリアモ

ス。エテラ。ビクス。洋より。荷增重倍
滄カと訣セ。利亞西高ハ。海ア。又

亞ア。北ヒの地僅。よ一路ハ。行ハ。アシアの地ヒと相シ解セれり

アヒア地方ハキハシセヤース。ナヒレス。小豆洋とよ。内
諸事よも。ヤアシヨリウタ。ヨソの玉をもす。ヤアシハ日を之
リ早うハ疏源之エリハ此作也。

西ハタナイス即チ
大乃河 オニトスエキシノス 即黒川的湖マレ
ニケテラニウム即ち
マーチルーフワス即ちア
レラニナリトル漢ヨ
ソニアヒトノハセヨスマアメラロソニ
スマアメラハオ馬大竜
ロッコハ呂宋れ下ツカヒヨリヨリ北ハタルタリヤ
マーリヤタリタリハ韓靼國マーリヤははよあよ
マーリヤタリタリハ韓靼國マーリヤははよあよ
マーリヤタリタリハ韓靼國マーリヤははよあよ

ルトのアメリカの地図あるとそれと並んで此地より
往く事アリテ。アメリカ地圖おれ醉れり そを此地を高めず
方よれぬ事アリモ此地アレ。テルレトムハ西國セヤースス。ペルシヤ
コスモソイテ。アカリカの地東も西の方一路僅ノシル
トアメリカヨモニヨアレテルコルヨモニハ西國也
ヒハケルウラニテヤヨハ 聞リモモ西北の地何の事
モリモリモ洋ヨセキ え西北のあさまきも
日本也アリモアカシモアカシモモハナシモ
マレアツトラヒテイヨムヨリナシ する事モ
大西洋

地すよと洋地紙地等の圖をやうるふつま

得るすうちひま中の事神輿図の題

歎異巴國中鏽る旧車蓋を因人及神印様
人皆ぬき也時絆絶滅則五傳而後之續歟
久猶得毛汎之木と云號曰大西今過て改
羅巴鏽板の輿地圖を以て毛汎と曰
彼も國と見しれせば前ソラニテヤ人の鏽
ノ毛も精め乎アリハ西洋也有得
易クモル也と云フラニテヤと云即今

我小よ星と御貢すアロ草蛇陀國のすすゑ
因坤輿國フ喝莧則草也モニ 西洋布セニ
諸最妙と注セマの如是とするモチソト則草
地日ミラトの
萬物セラト吉生 フルハヌシスアロ草蛇陀國
同ノ者也因人アヌアヌサムテ文也記の字
王精ノ又舟を徑る事多矣若也ヒ大船
衣食器皿等のわたり載セ大洋モ
セヒキモと用流する船の内處の御取れ

あれども人ゆどれ船は見るのまく改めりと
ハ贊意つゝ也。程よきものと作はし候す
石の船と云ふ事不ふ。仰りぬは因るを
玉山は奥の況最詳あると仰り只南方
一节の也。ソイテアメリカの西岸の方に載
洋あさりとよむシラード。鏤板の因によじて
玉砂塵因元三ノ因。厚月令廣義天絕或問
因を編室ニ及ト。其の因。とぞうと見る。

弓も大船とちやうのみ。又舟すよある。坤
輿因。改羅已納ホ。並西細並。此西墨利
呑。かよ墨を。刺泥加の。一列。とかつて六丈
丈。を。改。よ墨瓦。刺泥。係拂。即候。因人
姓。久。い。ナ。モ。此過。此波。并至。既。改。改羅。已。七
以。を。此。み。名。缺。名。名。也。不。其。墨。瓦。刺
泥。と。よ。節。是。ア。ゴ。ラ。の。多。多。脚。記。れ。ま
る。多。理。う。ア。ラ。シ。ト。人。と。く。拂。即。機。人。と。き。

さへ内宮御饋役因ニハヨリ一第の地
ノヨリ詳るアリシモ此れなどトシテナガル
又ヨリ坤輿圖從ヒ此亞墨納加尼為四
所圍也以徵也相聯とシテアラ蒙跑
鍾形圓より北更其前也モ西宮之方
ノヨリ詳るアリシモ役を作リテアラ
△卫ウロハ諸王法王モリムクミテ想すソルハの役
イタマリヤ後漢、高麗太祖王
大意大礼並ヒテ卫ウロハの守地比中馬止
ミ玉教セロトマントツ、ミラントの遠ウラカトモモ鹿モ近
シ方教化エキシテナスリムニ、周圍僅モ大鹿耳
セナヌムニ及ハセ儀巧ムニ、罠を制する極
メ工敏ニモ教化エキシテウスの敵ニテテニ軍
主の手ノモシテ、各地トウクスミテヒル。トヨリ
キ祥るアリシモ、モアリウルラブリイ

ト生すと云未開樹木モ樹
シシーリヤ後漢画亦里亞といふ、卫ウロハ極あせ申は

の一月二日は一山にちよと雪が降る
中で、雪が餘り多くて、山に登らぬ
間も、雪が積もる。山に登らぬ間も、
雪が積もる。

おありよ東京實業同士より來り御教の達よコトハニヤモジ
ナ

エウロハ西あはセの地よまは因縁貸をばか従事す
シテつゆアジアセ方ガアマカーシュニカモの地よ

わふホルトカル人わふタマのもよ
タマホリスル天之十
年セリ之モハ義磨國ニ申ムシタニ
八月之度ヒミツ紅葉ノ里也
アマカラ
アマカラ
天向山の人ヒミツホリ紅葉コワニ天川ハ皆モヒシ
アマカラヒミツ

うかのうへは船のうと音ねのま
く度長大へ年のかわら船の取花の達を尋
るを禁さんてんすとおせきのひのくにやまが
く段うるひもくよしむとえ船
よ勢船さん

宮城よりおひき舟船の
来る事とあらう

曰ナセキノ者ハシの賣船事ナシと云セ
物ノうちの御四事六月以テ逃亡の船事ナ
ハ月ニ至ル神ゆえ也シセウタツヤヨリモハシルト
カルの王妃をイスハシラ王の

再び礼碑と仰められ、今をもててかの和のまことに
のふ下をアケツタルときとよどみ即ち西徳守の六月
はるひのこよしをさへ

貞享二年七月某の賣船乗れ已又先を押
するにあらず終り承認は後方天元え
教教ふ入りまづひきの日めあちくはまづ
スリス。サベイリテス。後又近づ佛事教告者見
と上師の五般よ。四
も。よ。即ち天文年月の事。又後教傳主

この大明神宗萬曆二十九年の書也西澤元
馬窓實が奉りて此と記す之は萬曆二十
九年の事也知度も之をよせらるゝ彼教の
事也已の後もよしにがゆれん

○イスハラシ ラントの後はイスハラシ又シヤドウカ流子族
ノニ伊斯基你里トモ伊西尼你里トモシテ即ム之
ホルトカルヲラニスヤヨリト此セ持テクニ属キハ
ヌヌソイテアメリカの地を保セテ新ヌルセ元モハ

ワイスハニヤと号す
モハニヤジアセ方ロクシモニ
シの下詳す

ナリ度も年々必ず此く奉聘する所也
到伊斯把你更中の高船も必ず絶す事無
以テ主の船も必ず高船も必ず止めん
ノムニモ必ず寅ふニ毎の春再び聘て
仰えられ也

○カステイリヤ カステイラトミヒヨウスモ加西郎ヒシタ
昔義

あてかよと見曉ふ也

棹すよまむき柳す御もよ西すよすす也

ノキよぬく主教セラムラシスク名

エイリウストアリヒキのをとおカアリヤ

モララの道ヨラルガニキアラニカニギムトアモレキ
レキヒソドシムトアリトキスイタカの内ヨラニスア
トモフラニカレキヒソドシヨラニトの道ヨララニストアモレキ
行モ佛御案どモシヤルハカリヤルハカリヤ
の御紀ヤル

ヨウロハ西のよみくノイタリ。イスハニヤ。ヲニシ
テマニモのビヨア接するソイテマカリカのビを僕セ
ルヨムと完ミシイワカラニスヤト号とシ。

さういふ國の船もアリテアリテアリテ
いま译す友人の見本大明の書本
様子と見て
化粧様子
堺即候カルトカニと
いひかずはアリテアリテアリテ
は羅多加兒威也

蒲原都家錄と云ふと即ホルトカル之
伝郎機ハフランカレイキスラニガレキス等を號
號セヨ以テ フランカレイキス等と傳郎機と號セヨ
ハルトカルセ號セ蒲原都家と
ハカスティリヤセ號セ 亦號すヨ西洋人大明ヨ
西セヨヨリ武家正使ナニヨ伝郎機等の貪
を始とすとアラモニ正使ナニハ不知承
正十四年よりあるい事船燈を秋山よゑじ
天文十年よりあるい事西里よゑじ

○セルマニア セルマニアはヨーロッパ中央部に位置する国で、西はオランダ、北はベルギー、南はフランス、東はドイツ、ポーランド、スロバキア、ハンガリーと接する。また、北は北海、東はバルト海に面している。

セルマニアの地理的特徴として、国土の大半が平野地帯であることが挙げられる。また、中央部にはアルプス山脈の支脈であるハルツ山脈がある。

セルマニアの歴史は古く、紀元前1世紀頃からケルト族の住んでいた。その後、ローマ帝国の統治下に入り、4世紀頃まで続いた。その後、フランク族によって占領され、8世紀頃からセルマニアの名前で呼ばれるようになる。

セルマニアの文化は、中世から現代まで多様な影響を受けている。

○セルマニアの地理

セルマニアの地理は、主に北ヨーロッパの平原地帯である。

セルマニアの北は北海、東はバルト海に面している。

セルマニアの地形は、主に平原地帯である。

セルマニアの北は北海、東はバルト海に面している。

セルマニアの地形は、主に平原地帯である。

セルマニアの北は北海、東はバルト海に面している。

極めれども又時取事多きよもか人多也
毛と毛は來りしとシス功イチヤ 燐ニアヌウツヤヒ
スエイテモスノテルハム漢子義和と稱す

リ、ラニテヤ
シ、ウニトモ又喝莖北と致す太明の書又和莖
又紅夷とも紅毛鬼也トシトアリ
アリハあれと紅夷國ハ安ホ西北

又此處ノ衣を制ラシテ鈴鹿と身ニ縫ひ紅緋セテシテ縫子
至前四メニシテリヨヌエビ有ル安南多く植セタリ珠常
ニ賣ラシミテ國會ナムニ有ル也紅夷は夷山の金セラサセ
是す
セルニヤの西北ニシテ人稀上ノ小島ニシテ漁
楓シツカニシテ開キテ水と連ナリセアイスハ

ニヤは屬すモノはイスハニヤの役員苛酷よりよ博
多ホと絶つまつてゐる事と聞かし。隣もあ
お渡けし跡よりハナ鐘年をラントひよイスハニヤの
十日を漫一奪ひたる事も又其の腰をくわふ

を和すララコトを侵すせとゆえ卒く人々
銃と矢もこれよ歎するのみを隨處の
きい小路よぬをすれどアリカラシア殺めの
化を侵すれどヨロス又強くすれ
ユウロハ一方の強きをもあとすセミズルイツルア
イスランドラルラントセラヒトのケルトルランド
。ウイトラキトを侵すれどあかのせはカアフトボススペ
イロゴドロールマロカ。バタアビヤ。イワタ、ラニテヤセイ
ラシト人の後は異同とは云ふ別とすれどやや難い事
累々

必ずよひよればよ通やよまぢのをユウロ
地方のよじるモ貢聘の範さるのひくは
ヨのそく

○アンデルアニキリヤ支云イヌリの法エモルタイラスラント人
亞も詔すむりてふすレシガラテイラスケンキロタマツ
俗ヨヌイキリスト云ソノサムモチノ

ユウロハ西北の海中ニ一大嶺を以至是ヨスコツテヤ

一鷹の比ヨリえりに里親ミタマを一鷹ノペクニヤ國
はまは申ヨモナリテモ宿舟と接シテモ行
て又皆少々錢マサニアラト人あかニ西する
リセウモ初レキ人ヒトモらひキナリテナリ
は船主熱アツヤクナガラの賣船モ少々アリ
ナリト畏アラシカヒキ人ヒトモ号ハステ海賊カイザクナシ君
ナニシテ人ヒトモナマホ洋ヨウナリテセラ
ナシ又は國主トヨリ天王テンノトモ候ハシメテシテ敵アシガセ
近セヨシテモ尼山ニイサンを廢ハシメテ鬼ケアトアリ
天主テンシの敵アシガトセれトニシニ大敵オシガトニシ方敵カシガの
主シメ破滅ハシメの故ハシメトシテヒキト絕ハシメルモ敵アシガトシ
ナリ後回アフターハイモ又これトヨリアラト人ヒトを絶ハシメル
モスム時ヒメ

抄シテシテ教タチセモアリヒタマアラト人ヒトセラ
我ワタシも西ニシヒタマ年イヒの秋アキアリテ貢聘コボウヒツジ
ナス來れモキナシテ來アリアリ年イヒ元ハチ年

五月多雨漂流の人に送り半夏七月半
をよみれど

○スコットヤ原より訳思可存要と云
ラコトの先よスクワトラコトと云
シコツテアルと云

エウロハ西北海ヨリヨミアケルアトモヨリ海ノ北ヨ
ヨリ北西ニモアレケルアの北ヨミノペリシヤヨマラント
イユルヲトシテシテヨリ森を泥無と云すエウロハ西北アリヨミテヤヒル
アヌユツテヤ多シのキヨリ北モアレ過迎シタルウニラシテヤ洋秋ナ
ハキの極ムアヌエウロハ北アヨクシキ北セリイ

名をもつてゐる所多めで
を以て君とお君と呼む事と爲すのをれ
は内臣の舊山のゆゑを人と呼むが君
敵はあがつ官と居する事も何れの役ヲラニト
をもよ君をもすとく内の三郎の役をもす
と君おおちどくいひもんとひよんと友をもす
うち故よ君とちるはのめし又セラ口説よよみ
也あレサセマのことを、ヨシニテ人と接ひしモと
法ハシメシテ一年をもよんとやうとくせじサセマ
るのゆゑのふよきともすまはは方故よ君も之
多教するもよと等とヤヒキスマキスイムス

とひ最や一キと等の後之ひくローラン教化の主
一人のさは事ハシメと云ふがの後西夷の敵となる
住する島よひもと以て近と號称すと見く
たと先河はレペラトリル君のことをこれよりと
えゆニキスアキス君のことをいふす
そゆねコレクスレキスよつまくの事と云ふを説かヨリエ
マラコトイスをやお説か時ニアキスアキスをも無ひきおゆり
カラトのレコスと有りて説か ゆりすも
を次はオルストエリコスと次をヒものもセルマニアト席せし
もうちのをもとあふるほのね軍の

タタキハトウクスニシムトスハタタキニタリ也のをアリ
タタキハトウクスとの事也トモカタタキハトウクス不絲す
タタキ部屋の為長を称すル事ありて これらは属するアリ

マニアのエイチヤのモラコトモ地方の今後を考へて総
りく瞳子向一ムスコーピヤ地方のみモコル人には似

け方お専へふの教はるあれエイズスの法^{タハ}アラ
シト人のミルテイルスの使^スとア エイズス^{ヤス}ヨ 耶穌
と教す也^ク我俗ニセスモ^{アリ}モニテイルスハキ法の異端^{アハ}
と^{アリ}ラシト人の役^スは方名固冠刹黒同モ^{アリ}玉^{アリ}モ^{アリ}く
飾^スね^ス口^ス是^ス國君即位の時^ス司馬^スみ^スの^スた^スは^ス沙發^ス
を^{アリ}れと^ス被^ス般^スの^スき^スい^スを^スモ^{アリ}人^スと^ス
を^スの^ス約^スよ^スより^ス黑^スあり^スも^ス服^ス也^ク方北^ス迎^スえ^ス奉^ス候^スて
多^ス一^スそ^スれと^ス土壤肥^ス行^スま^ス庶^スわ^ス農^ス錢^スを^スイタリ
サ^スイスニヤ^スま^ス也^ク方稱^スモ^{アリ}モ^{アリ}他^ス編^スり^スあ^ス事^ス
写^スと云

此方の言葉へうそをいふ
事は絶えません。アラスニツ

スキリキスヨリ「レツキスとも云ひたるを記す」は
必至の也と申す。ペイウスと云ふテヨラの
御ユデヨラと云うとの也す。イタムの流はルテアと云ふ事
御ニシテ西と云す。これの事も亦少く、藏ひす。モ
因の事源法事教主も有り。トヨード人と称す。
ラテシト云ひたの因名今モ死故アキリイキス
おこれよりモウラテモヨリ死はば方後考され
エキト云ふアーテル法事の今と云ふは
ソヌキナシ又法事用ひる事字此ニツモ一ツモラテ
シの字ニツモイタリヤの字モラテシテノ原ヨ粉書の解
ミクシテイタリヤの字ハ洋ヨモホの姓也。シテモ
モ字僅ニ十餘字一切の名を要けり。又者モ
義廣也。モウモトヨ造考。モ後漢の字
人也。アリシ時也アリム。モシモレナリ。モ字
モモシモタリ。モシモレナリ。モ字
モモシモタリ。モシモレナリ。モ字
ラアマテイカと云は梵書急筆。モ声もモ言葉を
レトリカと云は。漢文文章もつゆ
1. まこと

は餘天文地理方術叢書の中より抄と寒
き字句を以て之を記す

△アフリカ民族

○トルカイタリヤの事はトルコヒルハ化野ヨハ
ウルコと云ふは沃洋ノヨリム全國都児

南寧山東北地是廣

の地方よつてゐるが、そのコラスをチイの地の時
の名地と遡けよといふ。コワヌタレナイヌ、これをちやど云
はば、東洋アフリカのヒル、アリヤのママレケーテラリニウム
也。ヒルアリヤは、アリヤの事也。又馬京馬利加と伏
せん。

マトレテゲトラーニウムを俗タルタリヤ。すみもんへと
ヨア地中あ之。難觀玉

く勇悍敵す一ノ月の兵士多きす而
ニ百千を以テニ万^{ニチ万}日を経ては内ひれこも鬼え
うつてゐる卫ウロハの地方を侵凌す也す右玉
相援てこれを備へと云

あることを決してアフリカの地方ともいふことは

属ノ又東北セルマニヤヨモギキヨヒスア
アメラヨシトス又セウカ说ヨヨヒシヨモギト

カルよお隣きひと云又ミラント人云けのゆを因字
モ地東小タルタリムヨ云聯は是統也と云々
トルカの比西北アルトルカの比モテテ東ヒムヌヨヤ
のホムヨモホモクスコヒヤヌゼルマニヤのホビエス
ヒノをトキタナタリヤヨシモ色ナタモ東
アホモト袖スマーマラヨモモヒモモ属すと
云心られヒヌモチモテラモウヒノヒトモ國坤
夢圓寺の法院山のホモ乃モナシノ又從る
ナモ忍川也モアヌホモ夢圓ヨ利東亞刈大耳尾四也

馬尔馬利更の比モ近ヒモ大耳尾或ハこれトルカの考辨
記載ナク又聲余の名を付シモ下のモ漫滅セト不ミ吉子モ
望モ考フモヨモ有矣

○カラブトホニスヘイトの後ヨカラホテースオフランスモカラフトモ云
洋欽ヨ行ヨモ比ナシモトモ大洪山角トモナセトモ
萬又高玉坤興圓の仙房冷社峰の比モ首叭布刺トモモ
カラアの音押シ形テ仙房冷社峰の名とすモノ

アフリカ庭苑のモヨ虎豹獅子禽獸の最後
近セララント人モ比と僕ゆヒト云マラント人の後モ
はヨリヨリナヒ方モ柏东角洋ヨナシユク時必經過の也ヨ
是よりテモナロシ船モドリガ不あり也

○マタカスカ 條々麻わ昌失昌と云々又仙房冷祉尊と云々と曰
は多岐流サンロレンツヌアラミテ
アフリカ 东南洋中の大陸也

御よあま坤寧因利も重の比せる州と號して
は方の名山大川を大略をそりすローマ人のラム
ト人等の役く不きは方の古俗人也考證
ありては方トルカの後又傳ひれハウロハ
人初めすもあてもより有詳かぬ
ミカアプロマタニカスカのセララント人役く不^レ人
禽獸もひととよをともかく人衆避けてお通す飲食の
餌をすうをやう見るひてハヌヒトナリナキモニ食ふ
主病氣する事のゆと云

アレア諸國

ハルムヤ 浮モ巴尔育西又巴児西と
云す我俗又ハルムヤと云也
インデヤの西アフリカ也
の东又アフリカモコルの属國也と云

捕らよけ因のとて不名産キ ラマラント人役ヨモ
下駄馬を産す地たゞ里奉といルシヤとある事
因の代々不まめりと云ふ物甚も年間ニ

蓮羅東輔塞等の圓聘を遣してもさう
馬を賜ふるをも乞ひて何うるマ、

ラント人のソム酒と云フ

○モコルは莫臥兒又莫卧尔と云す。古印度の地
此處の人被賤者豐衍け方の英國とされ殊譲
お猿（兵革のりもス猿）モジカラ。サラアダのイント

スタント等も屬國ニコストブルモンテールといふ。又モ
薩の名妻般輪婆のせこと云ヘシカラ下ヨリアラサラ
アタ原达はるく或

人瑞蘭山即はことよ心はれモインスタントはより應去私
也ス印度私也と云すコストブルモニテイルニコストルニトニ過邊
と云ウムノ以下は即名
すと云浮世遊也

拙よモ後より下字とする所法ニッキウスティヤンガ法
俗キリスト云フヘイデンスルをセシテイラ
トモ神アマヌス也マコメタニ

ナモマコメタニはモコルの教にしてアフリカ地方ト

ル力を入を教と云ふやとはほよ田々の教
といひの或是之或は後よりすももモウルと云ひ云々
云々神輿國と云ふ莫臥兒曰々モ
云々を以て阿累陀婆娘の國より曰々云々

○ヘカラ ラマニトの行はヘカラと云源は傍葛刺と
意方昌暉とも擴葛刺とも云

古の東印

度の地へと此名色布帛萬物を以て」と云即今
ト人齋來りて賣ふの布帛又
は玉の石も售れどもあれども賣はず

○イニテヤ 俗よ訛りて 西印度の地へ 稔よ其の印などより
西印度車と云 本大の地名を以て其の色
又古よえて西矢望の地方也

○アはモ西國の地又ヨリテ多忙輪峯の西カルトカル人
モ地又馳りて互市の事ヤ爰す アはモ又卧車と云す
俗ヨリワトムサ
而キ マルハル。ヤウル。セントメイビスもトヨ属す
名モモ俗モルヨ似アと云 マルハルスはマラハルともアの事ア
ヤウル。セントメイビスの地名を布帛

モモモロ布帛の地モ地名も售れども此の下より未
わヨリナリヤウル。セントメイビスモ

モモモロモルトカル人ヨアの地又移りて此は廣東
は廣の地を售モ人モヨリち多キは取リモ
莫ヤ山下幼慶也元和の官或ハ西城國鍋兵
巡防務リと稀シ或ハ西城國奉行天川港知府
と稀シテ軍モ放賣ヤカ和夫門の令ヒハ即
是ホルトカル人のこれの地ヨリモとも五和ハ即

而阿鳴港裏波マカラト
ソリの廣東の海ヨリヨリ地名也

セイランスセイロンとサイロンと云はれて湯狼嶺と湯蒙
因る翠藍嶺とも荷狼といふ即は

イニテヤ南の山の中より海に近き山駕又佛里の跡
れ石城或ハ仙涅般多の地基と云を俗モコルニ曰く
之モセア珠寶石内桂賓柳柳子モを奉り
トニ

ありよ止木の奥地ヨフルニあと称す不毛モ人毛毛
ノ原ニ云ふの崑崙奴或ハユミラント人の
役ニ凡庸道ニ近き也の人毛リクニロントニ

毛性慧有リと云モクロンあと云ハコレシホの音の物
ヤモモモ人毛毛モシヨウキヨモモトクロントリ
モクロニホと云ハカトニレ多毛ニ

○スイヤムシヌシヤムトモ云
僅々還羅と云す古の时還と羅解と
圓毛大え至山の羅解へ還ヒ合モ一毛トガ
ナスイヤムシヌヤムトモリナはすわ毛毛還の多毛ニ
モビア方よみて先候鷹あくたを多
月より時反稍鷹トモ人螺髻裸體絆帳と

用て後をもぬをすすむのゆは筆也皮角の於
ことよ

あは本朝慶もす方を玉貶く返すえ和寛
おの方も王ありうる全ゆう書と我俗よ至れ
まく聘聞す今よふりてはだも高波の未
の又もく家とよ経正慶も仲我玉の介と
さきよたをうへて我の執政よ書聘とみたま
さくらの萬代今ももあよそと云

附

○石城 義俗せばとよ
義名まほぎの 東蒲塞

甘字智。激浦口
淳甫塞号也

義俗カホキとよ義名まほ

二玉丸よ還囂の事と大波

武俗名と云義名
書存

還囂のあよ玉本朝慶もゆかたと我玉よ

返すと石城空玉の聘セリと聞す東蒲

塞の字碑も實取の初めよみて今ハ只モ
高波の本名の事とすまほ西(まほ)姓の
地すやよを後とぞ云

音秋玉と通せしと有る事多す

○ミロカ マラカスは、マテヤとふ原より滿刺加、麻刺加を込めて運羅
スイヤム西面の方海よりのもの也と云ひて居るト

カル人即ち古今ハミラント人ニ屬すと云ふ

抄るよも細度もナシテ二月ヲモト人ヨリ書
南財カステイリア人ミロカヨ歎ナリと哉ナシハ
け此セトカステイリヤ人の歎ナリミラント人
哉ひとどく云ふもナシテ三月抄りと云フ

カステイリヤナナカスティラ。ホルトガルの應也

○スマアタラ リモシタラ在云澤モ須門那。須文達那。蘿木都
刺サ棘門塔刺蘿門善刺ハ沙馬大刺等と云フ

アシア地方あるの中より至るよも东北便と傳て
すがうちマロカの比ヒ是直々赤足の者ヨリアリ
春秋の二季より夏氣を及ば春より秋より先て
日射あひと秋より春より多く日射壁
をえ候所て缺くと云ふより其を熱毛(

カレハ人皆裸着りて毛耳俗又還羅
ナキモ地黄を差すマラント人毛をと云
ヤカタラ 咳嗽喉頭也 大マアタラ東南西中
毛は毛マテヤワヒム 毛モ古也 聞婆シガタラ
マラント人抛う毛の毛名リモ毛治城はバタアビ
毛治城毛は因書編ニ聞婆の毛不毛毛毛十四
下毛聲毛ヤウヨウリ即是毛主の主都す不毛毛
毛スフドナムと称す毛俗聲毛毛毛毛毛毛毛
布毛糊毛リテ頂毛髪毛被毛毛衣毛絆毛褲毛
第毛地方暖毛テ敷毛室毛再熱毛庶物毛畫行
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛ヤカタラ毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛年毛マラント人毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
者毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

ハジタニはすかをうちヤワの既名澤よ板波と呼す
余今每事てよ半身ヤカタラのとよまひを

玉ノ浦へあすほのうこよ寫すものと

○ホル子ラホル子ヲヨミハホル子ル漢音 勘定カタニもは耳邊何と云す スマアタラの東ヤワの
東北ヒムカをあゆく

エ俗スマアタラヨ門モウモ地水精物独モツと産す
○マカサアルマカサアル傳マツシテ正マサニはこれセヘスの事マツシテの名マツシテ オル子ラホル子ル あ南マツシテ車
エミ士俗スマアタラヨ門モウ黄全禮木イエシライモクと産すと云

附

マカサアルの東北ヒムカ申マツシテエタラエタラと云エタラ 荒間マツシテ又マツシテ明吉
と云すは餘海マツシテ精多マツシテ也マツシテ此マツシテ西人マツシテの浅マツシテ也マツシテ

づくマツシテを云マツシテ洋マツシテがされマツシテ夏マツシテ冬マツシテ也マツシテ

○ロクソニロソニト云マツシテ原マツシテ島宋マツシテと云す我俗マツシテチイナマツシテのカニタ
の弟マツシテヨウマツシテチイナマツシテ支那マツシテ心マツシテを玉マツシテの古マツシテをマツシテテヤマツシテ也マツシテ
スマ子ラマツシテとも云マツシテマヨラマツシテ我俗マツシテマエイラマツシテと云マツシテ古マツシテの叶マツシテ毛マツシテ毛マツシテ也マツシテ
せマツシテ算マツシテイスシヤ人マツシテ儀マツシテ也マツシテもマツシテて國マツシテ毛マツシテ也マツシテ

シキ西事の如キ銀を産する山をイスヒヤと名ふ
猿ノ子チイナ人より移き六万许又ヤアヒニヤ
东ああ中より金銀を産す山をヤアシヤハ日ギ東
シテスモヤアパンニス跡今ある所はシテスモ
さてヨミモ金人集リ而て聚斂をするも金主
の俗を変革す故に努力と稱す當時信を附
を余も皆一刀を落スヨハリイスシヤ人是を仰
すよ法とく委フ由中モウソウをせまんが写

ヤアパンニス風よ放スヨコヨクヨリモ二八イヒヤ
人被裏巻ヌ鈍テ底レシヒシテヨロシの此はすまう
フルモーサルタカサコの事也即今之を博セトシラントの歴レシテ
今ハチイナモ屬すと云

すま度セ年月をさり又我王モ聘セ呑宋
國と云ふと云ふこれイスシヤノの如キモあり

シテスモヤ

○ノーラランテヤ阿モヌミモ紀述セ開今レ

ミラント人儀あるてあひてイワラランテヤ
と名つけと

は地のミラント人間よはせヤカタラもあ
よアラモ四百里斜あれ秋の里役よ本木の山
めでよもさをほりを去らめて仰
き人禽獸のめくよと言波西セビヤ氣龜
ノテヌマヌシ。また病ヒヤリて生病
まうまうぬゆみとほりイワララン
テヤと名けよはせを儀あるてあひて本
木の山行たよかとめくよとすきはる
のうもさくよみわぬ

捕ふ多ノの言ニチイナとシキヤ、那ノルターリヤ
とシキ即韓靼ヤ、ヤアシニヤとシキ申日モセ方のす
を経歴セシムニ傳うれいを後の事アリ

系王坤率國よりよ韓靼の事方海ヨリ起
地と因ス約主室華野作もの主を死ヌ

あは將てこよ坐へり行里又之四千里

さへはと苦しみうけぬよりとせじ
とも人の多く海うち今すまの前マシケル
アヘウルタジベルとよまりて身をもせ
を納て东洋よもじと云我方の人をもと
致^シし天地の北日えもんはたよ清く朝暮^タ
急^シてもいふ伝すづとひばくとれと嘆
アモ書作つてせよりとすと書き書^シひ
を言伝すべく不^シのまこと^シと

いひきこれに種子をほねばると四^ノ去年
壬辰年
彼^ノれて書も又いきかきとふれ
とゆきのまこと^シとおの役^シよるま^シ因^シ
よ^シて^シ本^シくよ伝すづと

○ノーワイスピヤはよお伊西把佈事と云す我等の俗名ノラバ
ハヤシマノノスヒヤと云ひ一寸
ノラルトアメリカの事^シよもとを語て申す時^リ
かもソイデアメリカの代^シイスパヤ人係^シて^シ申
主を聞^シわくをあにアカブトルコと云ひ

船輜擣、ノ民富饒のこととよ

あるよ乍度もナキ望の船運は放て
余もよ原見るを船と仰め難てゆき還る
四十才のえを主へ聘して恩を謝すはれ
の高船をうこよけへすむら地

○イワフコスヤほよひとも
新井即察と云ノラルトアメリカ東北の
地よとを地名周ノアスフランスヤ人従せゆて
新よとを置きシホシと云

獨よけ方の地極めて圓くを俗右左とす所
ち然とよ忍すユウ只地方の圓を地を保
てく形よとを置きシタシイワイスニヤ。
イワフランサヨのれよイワカラナ、タガキニモモモ空
ウロハセ方イスニヤの事地中ノーワアンタルタルフ津ヨ掩
め上よづ
不正立ウロハセ方カラタメ西ヨリ之の事地中
マラント人の後アメリカの地セ七月の以度と候しと

之もれとも各國の内古地名もよと洋かく

ソイテアメリカ諸國

○パラシリヤ ほよ伯西兒とふソイテアメリカ东方の國之を
事あり

地極めて廣闊にて東南北の方よりく皆西よ
より俗木々接又寛よ后くぬみて人を食す
を北面の中をトヘセントとシ小僧反冬ニハコモヒモ下
之と云セントセントは近生也乞はは保よ

セントセントは近生也乞はは保よ
セントセントは近生也乞はは保よ

セントセントは近生也乞はは保よ

所

系固坤寧國又號又ニアリ利加巴大邊之地
も人ふくとほせうマラント人ふくと國よじ
本の人民方の事例をすほも父ヨーラスの
地よも人をじて少舟よ呼りねばず御者

まよひとよ荒廻りてアラハヤシカ
よ大ナリナ屋の内よりを燒きテ跡をへを邊
よ人の足跡をうその人のアリニツと會せ
往よてあリ五三五六十石も二石よ多ナリは故
けびの食大ありすとハ難し物ナリモアツハ
セクハづるゆゆをはずスけびのんと見し
も河内と云ふハナワーラスするそら原は巴
大温と訣セキ西又云申寒國ヨリ方索密

圓産喬名巴尔婆摩樹上生す切力を乞劃
えは七涅戸不敗といひ即れ西洋地方ナリ
而バサモとよまは樹也ミラント全けわを產
す此を曰よペールイヒヤノムと云ふ学名
訣セキ西又云巴尔婆摩即バサモ

附

萬叶エウロハ地方モリノ戰國トウジタリ、初メイス
シヤの君名クイセシチウスのトーデーレス嗣とすき

子の もは セルマニアの君の方のオニの名はカラル
スルテルチウス 必ずも嗣とす てと あひて是はセルマニア
はけ方の大ふりて ちよを君の子はイスヒヤの
君のかぬするり歴 いセシチウス、
オニセとソウメシムの大歴より土代よりあるあくとく
称すけの俗ニカアサルスルセルマニアの君のみの名ニラルチウス
トヨオニモトナリ前よりおひて おがえ福タキテ原辰
ムクミ

イスヒヤの君既す時よりてを嗣いまし良ら
モ哀感群臣又達令して一封の書ととめ我

れせんけ書とおけく天皇像前よりひまくよ
御嗣のゆれよあせりとふ人を書とびて
ローマニヨアリて天主の像前よりて御モアトヨフラ
ンスヤの君の孫名はピリイフスのクイントスを以て嗣
とすトとモテテヌクニントスはトヨオヌとあくとモ
人皆あまきて敢て言を発せられとモ君の

命や不され敢てなづくはラスヤの君の孫
をむくて君とりてを冠をまことに世を経て位より

スルヨリニヤの君にてテ フランテアルコリトアニヤ。マルマアニヤの
兵す有セキ人セルミシヤの兵モ又戦也すも
ニキムカひきは戦ひを後モヨリトアニヤモ書道

スムスコヒヤ。サクイー。ヤねえ。スチチチヤと號ひ
ヒヤス。トルカと號ひ凡ナヒの名號也。モシ
礼きてけ方の全主をやすせれ我をよめら
とす。始め。あれを初宣れ。フランスや。ナシ。モウ。カヒ
カナアリヤ。モウ。ヒト。ナ。アニケルア。ラマラシテヤ。号の
兵馬六万を残殺。巨半隻。キヒリタイラ。ヨミチ

くわざと。ナマニア。ノ。従きて。ヨウ。ヨマ
ぬ。う。れ。て。ヒ。ト。を。ヨ。ム。ヒ。ト。ヒ。カナアリヤ。ハ。傳。傳。の。名。エ。ウ。ロ。ハ
属す。キリタイラ。又。ホントカルカヨ。の。あ。つ。ユ。モ

讀。あ。役。ハ。レ。庚。申。ト。ア。ヒ。モ。元。ナ。モ。の。ア。の。モ
エ。ヌ。モ。ロ。月。不。期。宣。れ。マ。ラ。シ。ト。人。フ。ラ。ン。ス。ヤ。イ。ス。シ。ヤ
等の人と。争ひ。一。万。余。人。を。斬。り。テ。フ。ラ。ン。ス。ヤ。の。ゼ。イ
セル。ロ。バ。ル。ケ。タ。ウ。ル。子。供。の。三。城。と。ヒ。マ。ラ。シ。ト
す。も。一。万。人。よ。ヌ。テ。庚。寅。モ。初。宣。レ。セ。モ。ヨ。リ。マ。ラ。シ。ト

人イスラヤ人と戦ひ五千人を斬りて三千人と
虜す。七月ヨーラントノフランスヤヨ攻マ。一万三千人
を斬。四千余人を虜掠す。ヨーラントノと戦をする者
一万余人。つるよモトーワイ。トーワ子セタミ。
モンス四城を攻ム。辛卯モ^{カブニ}七月ヨーラント
人フランスヤヨ攻ヘキモ王敵ハイスを去リヤ罕里
フレムの地をかうつゆセルマニヤ人となヨイスラヤ人
と稱フ。八月トルカ。タルタリーヤの魯ムスコヒヤ
と戰ひて先ヨモアヨほリ奪ヘトルコの地を
復す。スヨリ秋スウイテとテイスマルカ<sup>保証東那
瓈加</sup>とあ
翁起也モ。されば先ヨ兩エ地を争ヒテイスマルカ
の戦ひ利ヨク。モリヨモ地を失フ。ヨーラントノティ
スマルカを援來。テヨアヨ。後テ辛卯リムは
チテイスマルカモ。レバヒ地を復す。キヨモ兵
を發す壬辰モ^{カブニ}。
トルカ。ムスコヒヤヨ後て。おたり。ヨリ四月ヨーラン

トノセルミニヤ人トモヨイスニヤ。フランスを敗
主軍名ナ万人敵を斬リ凡一万余ミラントのセニニヤ
人の歿死する者九千有余キ人トモヨ軍を見て
去リ七月ヨリラントノフランスヤのビクイノを攻ヌリス
ヨマルセ子ビヨウテ歿シ敵アシ拒戰ひ勝ムと
は大軍カウジにてゆきやて以軍集セルミニヤ。ラシ
スヤのくみよよて興王名モ無ヨツレ兩王
よ後きておたいふりめんとはあ玉言毛モなキ

うすま己年カブニ往モ九月カウニあつまよお幸モ
各侵カウニシテおのビ膚カウニにカウニ西カウニを還モ

あよサルミニア。フランスヤの歿始ヒヨウリヨウ。布羽元氣
ナミシテ唐辰カウニモあわう。兵連カウニナシムヒテ
アタリカウニキサウ。布羽二往モ登己カウニ也

君

中